

これからの大和町議会のあり方ゼミナール(第4回)まとめ

日 時:令和4年1月23日(日)午後2時～

参加者:研究員21名

前回のゼミナールでは、課題の抽出のため「議員になる前」と「議員になった後」に課題となる事を集約して重要度の高いものとしてまとめました。

第4回では、課題の解決策やアイデアを各グループで話し合い、発表を行いました。

グループからの発表を聞き、他の参加者からも意見を出してもらい、グループごとに解決策の検討を行いました。

課題区分 B 「自己の意欲や知識、能力」

課題・原因

- ◎議員としての資質を明確に計る基準がない
どの程度、意欲、知識、能力が必要になるのか分からない

地域が抱える問題に正しく向き合っていない
職務に対する議員報酬が半端(コスパ微妙)
能力に不安 半端な意欲では不可
現状での自分の人間性をどう見られているか気になる
議会についても地域についても通常の教育では学ばないので知識が不足する
資質・能力をどう判断すべきか自分自身で分からない?
自信の人格、人間性の不安
愚弟的に議員になれる明確な決まりが無い
議員にはどんな知識、能力が必要とされているのかさえ分からない

解決策

議員になる前

- 基準を定める 議会の雰囲気を知る

議員になる適正テストを実施する 議員テスト
議会の雰囲気を知る 立候補する前に議会に行き実態を知る
議会を知れば自分が向いているか知ることができれば分かる

同様に立候補する前に調べ、その報酬で満足かどうか検討し不満ならば改善策を考え
たうえで議会に持っていく

地域住民に課題解決後の未来を具体的に提示する。そのうえで行動、意欲を高める

立候補する前にネットや書籍で調べ自分にできるかどうかの検討をする
家族を説得する 区長、地域リーダーに相談
自分の能力知識を再確認 支援者の期待に応える強い意志
議員でなくても議会に出席して雰囲気を知る
地域の役員を進んで引き受ける
人自身を信じ努力する
議員の方に話を聞くことで理解する
議員になる適正テストのようなものを実施
勉強会、研修会などでの参加で向上させる

議員になった後

○ 現状の制度の改正、環境の改革

資格を取得することで議員報酬が上がることでモチベーション UP
議会を見てダメなところの制度を変えていくことも重要

現状を理解し現状に則さない制度に関しては則した制度に変えていく
議会内でその報酬や手当について真剣に検討する
資格を取得するたびに給料を上げるなどすれば意欲や知識向上につながる
仲間をつくり一緒に勉強・研究する
常に向上心を持つ 実行力を発揮する
議員になった後意欲がキープできる環境
支援者、地元で年 1 回以上、町政報告書、報告会をする
テーマを決め行動・実行する
自己能力を高める努力する！！
町民と関わるイベントなどで常に新しい意見
河村先生のような専門の方に後援会を依頼し適切な知識を得る

他のグループのアイデア

- 議員表彰。議員は悪いことすると直ぐニュースになって噂になるが、どの議員が良いことをしたのかは耳に入っていない。議会だよりなどで情報を知ってもらう。
- 成り手がいないことの解決策として、そのためにも議員がどのようにモチベーション上げたり確保したりしているか聞いてみる機会があると良い。

課題区分 C 「時間とお金」

お金と時間の他にも情報が必要

課題

1. お金

議員になる前も、なった後にも必要になるが金銭的な支援がない
給料・報酬を見直し、廃止された議員年金、退職金などの復活

原因	アイデア・解決策
選挙資金が多くかかる 資金が少ない 議員報酬の低さ、少なさ 選挙に対する立候補者や有権者の意識改革 選挙資金の支援がところもない 金銭的な支援が無い	給料・報酬の見直し 議員年金・退職金等の必要性 支援制度を設ける(町から) 議員報酬の引き上げ 議員報酬の増額 町村からの金銭的な支援 (市町村の協力で)資金を増やす

2. 時間

時間外労働の多さ、選挙前のあいさつ回り、議員の仕事以外でも時間が必要になる。副業としての議員活動を推奨する。議員の専門職化も必要
議員が忙しいイメージを払しょくするためにも、育休や有休の取得率を向上させ女性や若い世代の議員になりたい意欲の向上を図る

原因	アイデア・解決策
時間外労働の多さ 24 時間議員としての意識が必要 選挙前の立候補者が支援者等へのあいさつ等に時間を取られる	副業としての議員活動を推奨する 育休・有休の取得率を向上させる 議員の専門職化 育休・産休の必要性

3. 情報

議員になる前に資金、時間がどの程度かかるか分からない。
給料を上げるとしても有権者の理解が無いと実現できないので、情報を町民に共有することが大事
制度を確立する情報を明確にする。HP や広報で情報を開示する。

原因	アイデア・解決策
資金、休みの取得などの制度を理解できていない可能性がある 資金、時間がどのくらい必要なのかわからない。情報が無い 選挙活動の簡素化	情報を明確にする 情報展開する(HP や広報で)必要な資金など 条例や制度の見直し 制度を確立する(休み、給与) 立候補者同士でのルールの申し合わせ 議員有権者等の意識改革

他の意見

- お金と時間を作れる人が議員になるしかない。お金や時間は与えてもらうのではなく自分で作れる人が議員になれる。
- 新たに立候補する人はリスクが大きい。選挙資金としてお金がかかる。候補者の情報を提供するために SNS や HPなどを町が作って、選挙活動をやらずに支持者に対して投票をする。フェアで公平かと考える。自分の地盤が無くとも政策を基に有権者にアピールできる。
- 23,000 人の有権者がいる。美里町は13人。大和町は 18 人。定数を減らして、その分の議員報酬を上げたらいい。
大和町は緊急時に集合する場合にも20～35分で集まれる。面積広くても対応できる。

河村先生からのコメント

- 全国の議員の定数は、人口、面積などの関係性が高い。
学校が多いところや合併して学校を統廃合していないところは、議員の定数が多い傾向がある。
学校は地区であり、人数が同じでも地区が多いところは、それぞれの考えが地区ごとに出やすいので、定数が多い。
大和町も昭和に合併している。合併している市町村ほど定数が多い。

課題区分 D 「生活や仕事の変化」

議員になる前

落選時のリスクが挙げられた。

支援者へ責任がある。かけた時間やお金があること。キャリアとの兼ね合い。家庭に迷惑や責任がある。

議員になった後

- ・女性は家庭からの協力が無いと難しい。
- ・補償が無いや議員になってどのくらい時間やお金がかかるのか分からない。
- ・選挙前にもどのくらい時間が割かれてしまうのか。家庭との両立が難しい。
- ・兼業や兼職をすることを容認する。
- ・あらゆる面で保証が無いことには、チームでの助け合い。
1人1人選挙活動するのではなく、似た考えの者同士で選挙活動をすることで、費用を分担できるのではないか。
演説も一人一人で選挙カーを借りるとお金がかかるが、集まって選挙活動する場を設ければお金も削減できるし、一人でやるよりもストレスの緩和されるのではないか。

周囲も本人も議員になったら、時間やお金、有識者の協力が必要と、地域や前例を挙げて話をする機会があれば立候補がしやすいのではないか。

立候補者の家族が持っている疑問は、家族や地域の人に信念を伝える場所を設けることが必要ではないか。

議員になっての課題として、女性として家族や支援者を説得できる信念を伝える場を持つことや、活動している人から意見を聞くことで一步を踏み出す力になるのではないか。

一步を踏み出す力をどう引き出すかもこのWSでのテーマだと思う。

一步が踏み出せる場を作ってやる必要がある。住民の意識変化として、葬儀に議員が出る出ないや、あの議員が来ない、入学式等にFAXを出した議員に対しての言葉などから住民も議員に対して過大な期待を持っているのを町民自身も改革していかないといけない。

議員だから24時間頑張って祭りや行事に行くことは、町民も「しなければならぬ」ではなく、意識改革が必要である。

一步が踏み出せるように、女性の議員を増やすのもテーマだと思うので、女性議員に講演をしてもらい、同じ悩みを抱えている方に安心感を与えられるような場を作っていければと思った。

課題	原因	解決策
議員になる前 落選時のリスク ①支援者への責任 ②かけた時間、お金 ③キャリア 無職に？ ④家庭 家族にも、世間の目が…	保証が無い 不透明な部分 (議員になって、どのくらいの時間？お金？)	<ul style="list-style-type: none"> ・チームでの助け合い 町民も巻き込んで (選挙活動～仕事費用を分担) ・有権者の協力 話を聞く機会 ・兼業・兼職の容認 ・家族をはじめ周囲に信念を伝える場 ・住民・町民の意識変化 住民期待⇔プレッシャー
議員になった後 家庭との両立(特に女性)		

着任時以降必要になってくる費用
 選挙時の費用いくら？
 選挙時につかえる制度
 「一步を踏み出す場」をどうつくるか
 女性議員の講演
 町民の議員に対する意識改革

その他の意見

選挙の出費、ポスターならいくらとか選挙カーならいくらとか
 議員になってから交際費がいくら増えたとかの目安があれば

河村先生からのコメント

制度が最近変わって市町村の議員選挙で、供託金がいるというのを統一することと、選挙費用の補助が出るようになった。市議と町村議では対応が違っていた。

昔、選挙は完全自腹だった。それはおかしいとなって、つい最近変わってきている。制度もお知らせした方が、立候補しやすいと思います。(下記参照)

選挙にいくらかかっているということは、選挙管理委員会の仕事なので、そちらで情報発信してもらい、主権者教育として、議会だけではなく選挙のことも情報発信してもらいたいとしては良いのでは。

※ 令和2年6月1日付けで総務大臣から通知あり、町議会議員選挙で15万円の供託金が必要になりますが、選挙カー、ビラの作成、ポスターの作成は、選挙公営(公費負担)の対象となります。供託金は没収点以上の得票で返還されます。
 供託金没収点:有効投票総数と議員定数の商の10分の1
 (参考)R1.3.29 町議選有効投票者数 10,488 人÷18 人÷10=約 59 票

課題区分 E 「支援者や議会内での関係」

支援者との関係

議会で孤立しないように、議会で良好な関係が築けるか、議会で主張ができるか。

支援者、地盤なのか、原因として、学校がコミュニティの中心で中学校の統合が地元意識に影響しているのではないか。

若い人がコミュニティに入っていくのは、学校が一つの入り口。学校のコミュニティが支持基盤になるのでは。

支援者とのコミュニケーションの機会を議員になる前や後にしっかり取らなければならない。

小さい地域での区長や、大きいところでの議員を推薦制にできないかという意見もあった。やりたい人が、立候補するだけでなく、下から推薦してなってもらおう。

区長（小） 議員（広） 推薦制
支援者とのコミュニケーションの機会
どの範囲のコミュニティが支援基盤なのか
なり手がいないのは報酬だけではない

会派、グループ・単独

会派の役割は、政策を通したり勉強会をしたり、同じ考えを持っている人が会派を組む。党もあるが、現状、最大会派は6人。一人会派やグループを組んで政策を通すこともある。単独で考えていて考えを通すこともある。

会派やグループ、単独での相互の意見交換の機会を増やしていくことが必要では。

案件によって、グループができたり、一人議員は案件通しにくいようで、政策の貸し借りもあると聞いたので、連携や相互の議論が必要なのではないか。

議会で孤立しない	議会で良好な関係を築けるか	議会で主張できるか
会派 政策を通す 勉強会の役割 会派届出が必要 共産党・公明党以外の議員 入っていない一人会派 議長派、そうでない派	個人 個人の会報で政策をうったえる事も 単独議員は自己の政策を通すのが難しい 案件によってグループができる事も 「政策」の貸し借り 最大会派 6人+ α 身近な政策課題、共感得られるか議員間 議員の力関係がある	
会派・グループ 単独	相互意見交換の機会大切	

素養

議員の人柄も大事

町長 二元性

町長や行政との協力も出ていた。

町長⇄議会 協力・チェック

町長との協力

議会は予算案を修正する

その他

区長への成り手の不足から議員への成り手不足にもなっているのではないか。

地域の課題も見えにくくなっている

学校はコミュニティの中心

中学校の統合が地元帰属意識に影響

若い世代

学校がコミュニティの入り口

地域の仕事もなかなか担い手いない

河村先生から講評

議会だけではなく役場の選挙管理委員会にも関わってくる話も提言できて、執行部や役場をお願いしていける。

議員の成り手は、くじ引きになったらどうでしょうか？

お金を掛けない、選挙をしないで、くじ引きでやったらどうなるでしょうか？

裁判員裁判制度も自己都合や知識が無いと行くのは大変で、くじ引きを頭の隅に置いてもらいたい。選挙をしなければいけないから行くと、「お金を掛けない」の究極はくじ引きになる。

くじ引きで議員を選ばれたらどうなるでしょうか？地域のためになるのでしょうか？

キーワードとなっているのが、「知っている人だから信頼できる」がある。知り合いが多いほど信頼されやすい。「信頼」というのを頭の隅に置いてもらいたい。知らない人は、どんなにすごい人でも「この人誰だろ？」になりますよね？

我々は知っている人を信用しやすい、信頼しやすい。国民の負託を受ける政治家は信頼がないと任せられませんから、信頼や信用が必要。

そうなるとお金がなくて「お金貸してください」と言う人は信用できないですよね？そういう意味で、ある程度の資力は、いるのかもしれませんがよね。

いきなり若い人に議員になってもらうためにゼミナールとかトレーニングするばかりではなく、町内会の会合に女性や若い方が出ていますか？一家で一人が出れば出席のノルマを満たしたとなる日本流の参加がある。

家単位、世帯単位で若いお父さんは仕事に行っているけど、おじいちゃんが出ればノルマを果たしたという住民参加ばかりしていると、おじいちゃんおばあちゃんが住民参加しているので、選ばれやすくなる。

農業委員会も選挙を止めた途端に女性の委員が増えた。一気に増えた。

割り当てで女性の声も聞かないといけないとなり、立候補する形じゃなく、女性や若い人が入ってもらうために、まちづくりの単位で意図的にやっている自治体もある。

立候補する前のプールに入ってくる若い人や女性などを増やしてトレーニングだという考え方もある。

いきなり議員を増やすのではなく、ひとつ前のところを増やすことを考えて、どうしたらいいかと考えていけばプラスになるかと思う。

その話を、内閣府の男女共同参画で話をしたら「えっ？」となった。東京や都市部の一部の都会の議員は男性ばかりで、良い環境のところでは女性が出てきて「おかしいです。」と発言している。地方は、まだ前の段階にあるのかもしれない。

そういった情報やデータを出してくださいだけでも、一歩前進になる。

今日の話は正解がない。いろんな意見が出るのが当たり前。これが民主主義。大事なことは「少しずつ、より良い形」なのだが、我々は一気にドーンと良い町になろうとする。

なかなかすぐにはいかないし、議員も一気には変わらない。

でも、どうすれば意識を変えられるのか、社会にもツボはある。それをどうやったら押せるのかを考えてもらいたい。